

## 「規範の帝国」EUの、グローバル戦略 —「国際ホロコースト記念日」と、移民難民受け入れ行動計画—

羽場 久美子

(青山学院大学国際政治経済学部教授、ジャン・モネ・チェア)

2016年は、EUにとって厳しい幕開けとなった。

昨年2015年1月、パリでシャルリー・エブド新聞社襲撃事件が起こり、2015年11月には、パリの市民娯楽街(サッカー場やレストランなど)での同時多発テロで130人の死者を出した。移民・難民問題、宗教問題などの「表現の自由」の対処に始まり、移民2世3世による市民に対する「ホームグロウンテロリズム」で幕を閉じたのである。

彼らはすべて射殺されたため、なぜ起こしたのかの原因はいまだ不明である。

これに対しEU域内各国では、フランス、イギリス、北欧を初めとするEU域内の西欧大国、EU内部でも人権先進国・福祉先進国とされる地域で、右翼急進主義の成長と移民排除の動きが広がっている。EUの境界線に位置するハンガリー、イタリア、オーストリアなどEUの国境地域ではより緊迫した形で、移民・難民を締め出す行動が起こっている。

他方、これに対して「保護する責任」を掲げて積極的に難民を受け入れてきたドイツで、昨年大みそかに、難民の一部集団による市民への暴行が引き起こされた。シェンゲン協定の一部見直しを含む移民・難民対策、2015年時点で2億4400万人とされる世界の移民・難民対策への先進国の対応が注目されている。

「規範の帝国」と言われるEU、多様性と包摂を掲げるEUが、どのような移民・難民政策を2016年に打ち出すのか。どのようなグローバル戦略を打ち出すのかがまさに問われている。またそれはEU域内各国との緊張関係を強める方向に働くのだろうか。イギリスやギリシャでも、不満と分裂の動きがくすぶる中、EUの戦略そのものが問われている。

日本も、少子化や労働市場の弱体化に鑑み、現政権が積極的に移民を受け入れる方向に舵を切っている中、今後ヨーロッパやアメリカがどのような移民対策を行っていくかは直接自国の政策にも跳ね返ってくる課題でもあろう。

そうした中、EUは、グローバル戦略(2015.6月策定)として、昨年欧州で起こった様々の移民難民問題とテロ事件を踏まえ、今年1月から6月にむけ、3つのキーワードにより指針を打ち出している。曰く、1. more connected / 2. more contested / 3. more complex world—より結束し、より緊迫し、より複雑な世界への対処である<sup>1</sup>。

1. グローバル世界は繁栄のみならず移民難民問題、金融犯罪、テロを生み出している。
2. 世界は前例のない緊張下にある。犯罪やテロがはびこり、境界線地域では緊張と格差、不平等が高まっている。
3. パワーシフトが起こり、中国を中心とした新興国の成長、米欧のパワーバランスの縮小、国家を超えた非国家組織や多国籍軍組織による不安定化が起こっている。

<sup>1</sup> 「EU 外交・安全保障政策のためのグローバル戦略—時代に即した新たな指針」2016年1月(戦略策定は2015.6. その期間は2016.6までの1年間) <http://eumag.jp/feature/b0116/>

こうした中で必要なのは、共通外交・安全保障政策(CFSP)、共通安全保障・防衛政策(CSDP)である、と。

それ自体は大枠の戦略であり、何も具体的戦略を打ち出したものではないが、それに血肉を与えているのが、昨年11月(フランス同時多発テロの1日前)のヴァレッタ首脳会議で出された「移民難民受け入れ行動計画」であり、また興味深いのは今回出された「国際ホロコースト記念日」の声明であろう。

移民難民受け入れ行動計画—ヴァレッタ首脳会議では、

- 1 非合法移民・難民および強制退去の根本原因に対応する
- 2 合法的な移民・難民と人の移動に対する協力を強化する
- 3 移民や庇護を求める人々の保護を強化する
- 4 非合法移民・難民、密航および人身売買を防止し、これらの動きと闘う
- 5 送還再入国および社会への再統合に対する協力強化に向けてより緊密に作業を進める。が採択された<sup>2</sup>。

今後、11月のフランスでのテロや、ドイツでの一部難民による暴行事件を受けて、市民の不満や不安を背景に、1. や 4. が強化されていく可能性は高いであろう。

そのため、EU 及び EU 域内で最も移民を受け入れているドイツなどの提案により、トルコに対し 30 億ユーロの支援を与え難民ファシリティを設立することが計画された<sup>3</sup>。

また EU 域内における移民難民への不満や排除の空気を受ける形で、2016年1月27日の「国際ホロコースト記念日」に、欧州連合は、外交・安全保障政策の一環として、「反ユダヤ主義」や異質者への排除がヨーロッパで広がっていることに警告を発している<sup>4</sup>。

そこでは「ホロコーストを忘れることは二度殺すことだ」というエリー・ヴィーゼル(ルーマニア出身のハンガリー系アメリカのユダヤ人)の言葉を引用し、ユダヤ人大虐殺を記憶しその犠牲者を悼むことと合わせて、現在における平和と統合と多様性を維持することの重要性を指摘している。移民・難民対策ともからめて、「多様性を恐れ、困難が生じた時に反ユダヤ主義を持ち出し、スケープゴートを探す危険性」を認め、今の困難な時代に教訓として生かすこと、悪の記憶と人間愛の心を次世代に引き継いでいくことを主張している。現在移民・難民に対して、シャルリー・エブド事件以降、EU の中で包摂ではなく排外主義的な動きが高まっているだけに、重い言葉となっている。

ホロコーストに対する70年間に及ぶ継続的告発が、現在のEUやドイツにおいて移民難民を歴史の贖罪としても受け入れようとしていることから鑑み、EU の移民難民対策に対する多様性と共存の本格的な対応と、歴史的重さの背景を見る思いである。

日本も2015年から移民を毎年20万人受け入れるという政府提案が2014年に出され、また難民申請も申請は多いが申請許可ははかばかしく進まない中、我々EU 研究者、移民研究者も含めて、移民難民対策に対する先進国としての法的・政治的な分析と責任、安全対策の在り方を、市民として本気で考えて行かねばならないときに来ていると思われる。

<sup>2</sup> 「移民・難民に関する行動計画—ヴァレッタ首脳会議」(2015.11-11-12)

<http://www.consilium.europa.eu/en/meetings/international-summit/2015/11/11-12/>  
<http://www.euinjapan.jp/resources/news-from-the-eu/news2015/20151112/103805/>

<sup>3</sup> 「EU、トルコのために30億ユーロの難民ファシリティを設立」

<http://www.euinjapan.jp/resources/news-from-the-eu/news2015/20151124/104216/>

<sup>4</sup> 「国際ホロコースト記念日に寄せたモグエリニ EU 上級代表の声明」(2016.1.27)

Statement by High Representative/Vice-President Federica Mogherini on International Holocaust Remembrance Day  
[http://eeas.europa.eu/statements-eeas/2016/160127\\_01\\_en.htm](http://eeas.europa.eu/statements-eeas/2016/160127_01_en.htm)